

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（伏見住吉 幼稚園）

教育目標

心豊かに主体的に生きる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度も要支援児が多く在籍しており、一人一人に寄り添う教師のかかわりを徹底し、安定した信頼関係を築くことができた。・感染の減少で、他学年との交流が増えたことで、年少年中児が年長児の姿にあこがれをもち、興味をもって活動に参加したり、真似て自分達の活動に取り込んだりする姿が見られた。飼育当番を年長から年中へと伝達する中で自信をもって関わる姿が見られた。幼児の実態を見取り、それぞれの学年の活動を工夫して取り組み、興味関心や意欲を高めることができた。・保育の具体的な見直しを通して、幼児自身と教師自身の、その時々の課題をより明確にすることを、次年度も継続していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度も『花の苗やさん』、児童館、地域との共催行事の『ハロウィン』、更に今年度は『茶道体験』も再開できたことはよかったです。保護者にも地域との交流等が実感できた。・今年も教職員の熱意やチームワークの良さを感じた。・月だよりやHPの写真から、教育の意図や視点がどこにあるのかが、よくわかる。園だよりに書いてある幼児期の大切さや育てたい事について新聞にも同じような内容が書かれていて、大切さに共感した。保護者の理解と概ね良好な評価を得られたことも納得できる。・今後も地域として、コロナ前の活動に、少しずつ戻しながら、園への協力もしていきたい。・保護者の多様な価値観、要支援児の多数の在籍、園児獲得と様々な課題に向けて、今後も果敢に取り組んでいってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年（11月）	学校運営協議会理事
最終評価	令和4年（3月）	学校運営協議会理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・『人とのつながり』に重点を置き、『振り返り』シートを用いて、具体的に振り返る。
視点：子どもの「本音」は、どこにあるか…。
：教師の援助や環境構成はどうだったか。
- ・教師側の課題を明確にする。
- ・個々の姿の見取りを確実にしていく。
- ・まず、担任とのつながり、子ども同士のつながりを意図的に作り、遊びの充実につなげていく。
- ・写真やポートフォリオ等を活用。園内研修で学んだことや子どもの育ちを、園便り、HPに活かす。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・『振り返り』シートで、個々の本音を探り、一人一人が思いを十分に出して、人と関わっているか、遊びの振り返りと共に、人と関わる力を、どう育てていくか、そのための教師側も援助等を具体的に振り返る。
- ・写真やビデオなどを積極的に活用し、視覚的に環境や子どもの姿を共有できるようにする。
- ・エピソード研修を継続的に行い、幼児一人一人の変容を探り、そのための教師の援助や環境構成の在り方を見直す。
- ・保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・各学年の研究保育と協議、エピソード研修をそれぞれ3回ずつ行い、幼児の『本音』(素直な気持ち)を引き出すための、まずは教師の受けとめ方、援助を通してどの程度実現できたか、幼児の姿から探ると共に、教師側のかかわり方についても、具体的に見直し、次(個々、クラス)への保育の展開について研修した。
- ・アンケート結果
「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」
大変そう思う…89% そう思う…11%
「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」
大変そう思う…71% そう思う…29% であった。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・園内研修の主題について、まずは子どもの姿の受けとめ方そのものについて立ち返り、多面的に捉える事の大切さを再確認し、共通理解を図るとともに、具体的にどのような手立てが必要か等を、子ども側、教師側の両面から、考えることができた。
- ・子どもの姿から、どこに視点をあてるのか等、なぜそのように受けとめたのか、教師自身の視点も明確にしていく必要性を再確認した。
- ・保育の中でITCを積極的に活用し、視覚的に示し、子どもたちに、より明確に方向性を示すことができ、活動がより充実した。
- ・保護者アンケートより、幼児の『本音』(素直な気持ち)を安心して出せることにむけて、各クラスの実態に合わせた支援を工夫し、保育を行うことができたことは、良い評価を得ている。
- ・『園だより』の子どもの姿を、写真を多くしたカラー刷りで、担任教師の簡潔な文章で、活動の意義や、ねらい、願を、簡潔にわかりやすく伝えることを、今年度も継続している。

分析を踏まえた取組の改善

- ・『園だより』だけでなく、保育の意図や、学びや育ちにつながっていることを、担任が具体的に、保護者への伝達ができているかを検証し、簡潔に的確に伝える力量を高めていく。
- ・京都市立幼稚園の保育内容が、どれほど、幼児期の育ちに必要な取組がなされているかを、今一度、教職員間で共通理解を図り、発信していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・エピソード研修の回数とその成果
- ・アンケートお子さんは幼稚園生活を通して、心身がたくましくなってきたと思いますか」と「お子さんは安心し、楽しく幼稚園に通っている」の、保護者と教職員の回答

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコロナ禍での心配がある中、全学年での運動会（スポーツフェスティバル）は、他学年の姿が互いに刺激となり、保育の充実につながっていると感じる 運動会代替行事『スポーツフェスティバル』での子ども達の姿に感動した。 教員だけ（PTAの手伝い無し）での進行、教職員の動き、無駄がなく協力的でよかったです。 内容もよく考えられていて、運動量十分だった。 『園だより』、HPがわかりやすく、子ども達の様子や、先生の考えがよくわかる。
最終評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> エピソード研修としては、各クラス学期に一度は実施できた。 アンケート結果 「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」 大変そう思う…89%→91% そう思う…11%→9% 「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」 大変そう思う…71%→77% そう思う…29%→23% であった。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿の受けとめ方そのものについて立ち返り、多面的に捉える事の大切さを再確認できたが、どこに視点をあてるのか、なぜそのように受けとめたのか、教師自身の視点も明確にしていくことについては、今後も大きな課題である。 保育の中でITCを積極的に活用し、視覚的に示し、子どもたちに、より明確に方向性を示すことができ、活動がより充実した。 幼児の『本音』（素直な気持ち）を安心して出せることに向けて、各学年クラスの実態に合わせた支援を工夫し、保育を行うことができたことは良い評価を得ている。 『園だより』の子どもの姿を、写真を多くしたカラー刷りで、担任教師の簡潔な文章で、活動の教育的意義や、ねらい、願いを、簡潔にわかりやすく伝えることを、今年度も継続しているが、教師の焦点が明確であるかどうか、見直す必要があった。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の園だよりの『子どもの様子』をエピソード研修に有効活用していく。 写真を撮る（記録を残す）ということは、何に視点を当てているのか明確になっているか。その意識がどのくらい自覚できていたかを再度振り返り、個々に問い合わせ直す。 保護者が確実に見る（読む）たよりにするため、より“見てわかる”ようにするため、教育的意義を明確に、簡潔に、記述できる力量をつけていく。 ITCを活用していく。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 何を一番伝えたいのか、教師自身の視点や、個々の幼児の姿の捉え方等、専門的なことではなく、“保護者がわかる”伝え方が、より理解が得られるのではないか。 明確な視点をもつ教師の力量を高めていく。 毎日の降園時、その日の様子など、担任から直接話を聞けることは、安心につながっている。

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・伏見住吉小との定例会。交流等についての事前事後の話し合いの時間を確保する。
- ・出前授業等、学校のスタートカリキュラムへの参画。
- ・互いの保育・授業を可能な限り参観しあう。(せめて感想等を伝え合う)
- ・ＩＴＣを活用し、交流の幅を広げる。
- ・1学期から、就学に向けての連携を図る。
- ・合同研修や幼小交流において、思考力の芽生えの姿や、その姿を育む教師の意図のある援助や環境構成などについて発信し、『学びに向かう力を小学校の学びに繋ぐ機会』となるようにする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・接続期教育課程を見直す研修を行う。
- ・合同研修や幼小交流保育の実施回数や内容の充実度
- ・保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う… 69% そう思う… 27% あまりそう思わない… 4% であった。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・今年度も『苗やさん』では、幼稚園に招くことはできなかったが、昨年度の取組方法を活かし、伏見住吉小学校1年生との交流ができた。さらに直接の交流は昨年通りだったが、ＩＣＴ機器を活用し、幼稚園と1年生2クラスとつなぎ、リモートではあったが顔を見て、声を聴いて交流することができた。
- ・今年度は、年度当初から、計画的に回数を増やすことを考慮し、『出前授業』実施することができた。事前事後の話し合いもでき、幼稚園教諭の子どもへのかかわり方、姿の見取り方を、伝えることができた。しかし、保護者の理解にはつながっていない。
- ・今年度も子ども同士の交流は無いが、幼稚園の砂場での1年生の活動が昨年度よりも多く実施できた。その後も幼稚園の小動物を題材にした授業にも協力した。
- ・予定にはなくとも、状況に合わせて臨機応変に幼稚園側の教員が対応し、実際にその動きや、言葉かけを、見てもらう機会となつたが、小学校側には届いていないと感じる。
- ・小学校の教員に対して、積極的に働きかけていたが、小学校側の希望や要望には、万障繰り合わせて協力しているが、小学校側は必ずしもそうではない。小学校側にとってのメリットだけにとどまっているように思う。
- ・なんとか互恵性のある取組になるよう、働きかけ、5歳児が1年生の体育の授業を見学し、1年生の姿を見たり、50mを走らせてもらうことができたことはよかったです。

分析を踏まえた取組の改善

- ・昨年度に引き続き、子ども同士の対面での交流は、積極的に行える状況ではないが、手紙や動画等々でのやり取り等、方法を工夫し、今後も積極的に働きかけてていきたい。
- ・工夫と熱意と柔軟な考え方次第で、方法は見つかるはずだが、小学校との温度差を痛感する。
- ・思いが伝わりやすい、育ちにつながる互恵性のある交流方法を探り、可能な事から実現していきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前の時期、動画でのやり取り等で、連携、接続を図る。 ・アンケート「保幼小連携・地域との連携等は、子どもの育ちにつながっている」の保護者と教職員の回答
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園からの積極的な働きかけと提案、柔軟な受入のおかげで、1年生の授業に貢献できている部分がある。 ・(苗やさん) 1年生の参加はできなかったが、育成学級の児童と、小学校の校長先生方が、幼稚園に出向いてもらえたことは、よかったです。 ・『スポーツフェスティバル』の取組が、運動量も確保され、子どもの発達を考慮し、工夫がされていてすばらしかった。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前の時期、動画でのやり取り等で、連携、接続を図ることができた。 ・アンケート結果 「保幼小連携・地域との連携等は、子どもの育ちにつながっている」 大変そう思う… 6 9 % → 7 1 % そう思う… 2 7 % → 2 5 % あまりそう思わない… 4 % → 2 % <p>【無回答 1】</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はできなかった2年生との交流が実施できた。 ・運動会前に1年生の体育の授業を見学したり、育成学級との交流等、折に触れて機会をとらえ、幼稚園から働きかけて実施することができた。 ・就学前に、幼稚園教員が給食の様子を撮影しに行き、年長児に映像を見せることができた。 ・出前授業や、砂場の開放、小動物に関わる授業等々、幼稚園は日時等々最大限配慮して小学校の要望は全て受けて、全教員が協力しているだけで、互恵性のある連携、接続にはなっていないない。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、小学校へ、また区内の就学前施設に、幼稚園から積極的に働きかけていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりは、交流等が、保護者にも見える状況であった。 ・小学校とつながっているということは、とても大切なことで、今後も継続してもらいたい。 ・小学校とつながっているということを、より保護者が知るべきである。

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で、年長者への憧れや年少者への思いやりの気持ちを育てる。 ・コロナ禍での場の構成、玩具の数・量への配慮を徹底する。 ・記録をもとに指導計画を見直し、子どもの実態に即した活動内容を工夫する。 ・おやつ…アレルギー対応、管理を徹底する。 ・預かり保育担当教員と担任との申送りを徹底する。
--	--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・参加人数や利用率の推移。(動向や曜日ごとの変動等も踏まえて)
- ・活動や指導計画の見直し状況
- ・保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・預かり保育の参加人数は、昨年度に比べて就労での率が増加している。
- ・アンケート結果 「預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」
大変そう思う…93% そう思う…7%

「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」(55人中39人が参加)

参加者39人のみ回答：大変そう思う…64% そう思う…36%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・追加、変更、取消の方法が、ようやく周知できてきた。
- ・コロナ対策での、場の設定の臨機応変な変更等、感染対策が確実に実施できていることが、参加するにあたって保護者の安心感につながっている。
- ・参加人数と遊戯室の広さの関係上、密になりやすい。その時々の状況に応じての感染予防への意識をより高めていく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・要支援児に対しての個別にかかる人員配置（誰を配置するか等）を的確に行い、参加幼児が全て、安心、安定して過ごせるようにしていく。
- ・追加、変更、取消等が、気軽に、また事務処理上、確実にできるように、保護者的心象を変えていく。
- ・これから季節を踏まえ、より感染予防を徹底する。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・利用状況の把握と、積極的なボランティアの活用
- ・アンケート「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」の回答

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・朝預かりが始まったこと、もっと発信した方がよい。合わせて夕方6時まで預かっていることも、より周知した方がよい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・アンケート結果

「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」参加者のみ回答

大変そう思う…64%→68% そう思う…36%→32%

【回答(預かり保育利用)数 前期…39名 後期…50名】

自己評

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・参加人数は、就労での率と、要支援児の利用数が増加している。
- ・感染状況により、常に対策を講じてきた。(指定席にする等、活動のさせ方等)

価 値	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 要支援児の利用が増えてきているため、より人員が必要である。 時期や、人数によっては、活動内容の工夫が必要である。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 他学年の子どもたちと仲良くなれていることが、よいと思う。 室内の預かり保育に参加するよりは、外で遊びたいため、1号認定者は園庭開放の方が多かったのではないか。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 降園時に、学級や個々の様子を丁寧に伝達し、園としての説明責任を果たす。 また、保護者が安心できるように、個に応じた具体的な一言アドバイスを心がける。 未就園児教育相談の充実を図る。 親も子も友達ができる場、安心して子育てについて悩みを相談できる機会を設ける。 わかりやすい資料（写真中心）の作成。 ▶2歳児クラスの枠を設ける。 保育公開や自由参観などの教育発信の機会をつくり、開かれた幼稚園づくりを進める。 ほっこり子育てひろばや家庭教育講座で、子育てについて悩みや工夫を出し合う機会を設ける。
(取組結果を検証する) 各種指標

中間評価

各種指標結果		
<ul style="list-style-type: none"> 業者弁当に関するアンケート結果「業者弁当の取組はよいと思う」 大変そう思う…85% そう思う…13% あまりそう思わない…2% アンケート結果「お子さんは安心して、楽しく幼稚園にかよっていますか」 大変そう思う…87% そう思う…13% 		
分析（成果と課題）		
<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 業者弁当の実施は、曜日によって保護者の軽減にもつながる（月・金）で、おおむね実施することができた。また曜日を固定していないので、連休や園外保育等の都合に応じて、週2回の実施が確実にできた。 昨年度よりは、申込数は増えている。 未就園児教育相談は、本園の実施曜日が児童館の実施曜日と重なっているため、曜日の変更をしたいが、担当者が見つからず、現状のままで実施している。人員確保が難しく、2歳児クラスの枠を設けることがまだできていない。 イベントを伴った説明会等が1回しか実施できなかつたが、随時を受付けているので、希望の日時にできることで、園内見学の希望者は多い。 </td> </tr> </table>	自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 業者弁当の実施は、曜日によって保護者の軽減にもつながる（月・金）で、おおむね実施することができた。また曜日を固定していないので、連休や園外保育等の都合に応じて、週2回の実施が確実にできた。 昨年度よりは、申込数は増えている。 未就園児教育相談は、本園の実施曜日が児童館の実施曜日と重なっているため、曜日の変更をしたいが、担当者が見つからず、現状のままで実施している。人員確保が難しく、2歳児クラスの枠を設けることがまだできていない。 イベントを伴った説明会等が1回しか実施できなかつたが、随時を受付けているので、希望の日時にできることで、園内見学の希望者は多い。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 業者弁当の実施は、曜日によって保護者の軽減にもつながる（月・金）で、おおむね実施することができた。また曜日を固定していないので、連休や園外保育等の都合に応じて、週2回の実施が確実にできた。 昨年度よりは、申込数は増えている。 未就園児教育相談は、本園の実施曜日が児童館の実施曜日と重なっているため、曜日の変更をしたいが、担当者が見つからず、現状のままで実施している。人員確保が難しく、2歳児クラスの枠を設けることがまだできていない。 イベントを伴った説明会等が1回しか実施できなかつたが、随時を受付けているので、希望の日時にできることで、園内見学の希望者は多い。 	

学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・偏食に対する保護者の意識への、日々のはたらきかけ。 ・未就園児教育相談に参加したくなるような行事（イベント）の実施に向けて検討していきたい
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児教育相談の登録者数と未登録での入園数。 ・担任からの日々の連絡の中で、子どもの姿から、成長したと思われる姿や事例を具体的に伝え、保護者にも、子どもの見方、捉え方を発信していく。 	
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、未就園児の運動会が、盛況だった。 ・在園児の演技を見ることができたり、在園児の演目を、一緒にできたりしたことは、楽しさを実感できてよかったです。
最終評価	
(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ・業者弁当に関しての「業者弁当の取組はよいと思う」 大変そう思う…8 5%→8 7% そう思う…1 3%→1 1% あまりそう思わない…2%→2% ・「お子さんは安心して、楽しく幼稚園にかよっていますか」 大変そう思う…8 7%→9 3% そう思う…1 3%→7 % 	
自己 評 価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・業者弁当の実施は、曜日によって保護者の軽減にもつながる（月・金）で、おおむね実施することができた。また曜日を固定していないので、後期も連休や園外保育等の都合に応じて、週2回の実施が確実にできた。 ・昨年度よりは、申込数は増えている。 ・人員確保が難しく、2歳児クラスの枠を設けることがまだできていない。 ・園内見学の希望者は多いが、入園につながらないことも多い。
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none"> ・極端な偏食が多くみられる。業者弁当は、保護者の負担軽減だけでなくみんなと一緒にのものを食べるという、子どもにとっての教育的効果を、より周知していく。 ・アプリ導入に伴い、曜日や回数を再検討していきたい。 	
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関して、保護者自身が、『この子は〇〇が苦手』と、思いすぎてないか。また、園からのいろいろなアドバイスを必要としているのではないか。 ・野菜や、苦手なものを、食べたことが無いという、子どもが増えている。 <p>業者弁当で、苦手なものも食べることができた体験ができるることは、保護者としてはありがたい。</p>

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を徹底し、方法を工夫し可能な限り地域との行事を実施していく。

〔『花の苗やさん』『ハロウイン』『茶道体験』『地域清掃』に参加 等)

- ・行事や保育参観・園内展等に誘い掛け、意見・疑問等をいただき、幼稚園で大事にしていることを発信する。
- ・自園の取組や教育内容をHPや幼稚園だよりで発信し、開かれた幼稚園づくりする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・保護者アンケート項目の回答
- ・運営協議会での意見

中間評価

各種指標結果

- ・保護者アンケート項目の回答

「保幼小連携・地域との連携等は、子どもの育ちにつながっている。」

大変そう思う…69% そう思う…27% あまりそう思わない…4%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・昨年度の方法を踏まえ、実施することができた。より充実できるよう、実施方法を工夫した。
- ・常に計画通りに実施できないことも想定し、常に実施可能な方法を模索し、代替え案を準備している。
- ・伏見住吉小学校との交流等々は、実施できているが、保育所や地域との取組は、ハロウインだけであるので、保護者には、実感できる要素が少ない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・どのような状況下でも、工夫してできることから、取り組む。
- ・保護者を始め、取組の様子や意義などより発信していく必要がある。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・アンケート項目の回答
- ・運営協議会での意見
- ・地域行事についての園内研修や打ち合わせの実施

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・今年も、様々な取組に対して、園の前向きな姿勢がよかったです。まだまだ制限はあるが、できることを実現しようとする園を応援したい。
- ・地域行事は、今年も中止が多い。可能のことから実施に向けての方法を、共に模索していくたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・アンケート結果

「保幼小連携・地域との連携等は、子どもの育ちにつながっている。」

大変そう思う…69%→71% そう思う…27%→25% あまりそう思わない…4%→2%

無回答 1

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・昨年度よりは、実施できたことが増え、保護者も実感できたのだと思う。
- ・特に年長児の『茶道体験』は、保護者の実感につながったと思われる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・実施方法の模索

	<ul style="list-style-type: none"> ・『茶道体験』の回数を増やすことで、年長だけでなく年中児や、年長親子等、コロナ以前の実施方法も検討していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『茶道体験』では、学校運営協議会理事、地域女性会が関わったことで、園児の様子がわかり、大変よかったです。今後も協力していきたい。 ・今年度、コロナ禍でも実施できた活動（行事）は、継続していきたい。

(6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が勤務時間と『見える仕事』を意識し、見通しを持って取り組み、効率化を図る。
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『報・連・相』の徹底と『見える仕事』を意識し、実践する。 <p>今、個々が取組む（取組もうとしている）業務について周知し、優先順位の共通理解と、分担していくける段取りを組み、効率化を図り、二度手間を避ける。</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間と働く意欲 ・打合、会議に要する時間 ・年休取得率（教頭、教員が休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。）

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね意欲的な姿が見られるが、教職員アンケートでは、「いきいきと働けていない」の回答があった。 ・打合、会議に要する時間については、保護者対応等々計画通りにいかない事が多いが、効率よく進行できるよう、積極的に発言し、終わりの時間を意識して取り組むことができた。 ・年休取得については、教頭、教員が夏季休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得している。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『見える仕事』について、今一度、意識化されるよううながしていく必要を感じる。特に報告、連絡については、徹底していかなければならない。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝達、報告を徹底し、二度手間を防ぎ、より効率化を図る。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打合、会議に要する時間と段取りの共通理解 ・年休取得率（教頭、教員が冬季休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『スポーツフェスティバル』の取組から、全教職員の協力体制がとれていることがうかがえた。 ・「全教職員で子どもを見てくれている」という保護者の声をよく耳にする。あたたかいかかわりの中での、公立幼稚園の様々な取組が、できるだけ、維持されることを願っている。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員は子ども一人一人にあたたかいかわりをしている」 大変そう思う… 9 1 %→9 6 % そう思う… 9 %→4 % ・「教職員はいきいきと働いている」 大変そう思う… 8 5 %→9 3 % そう思う… 1 3 %→7 % あまりそう思わない… 2 %→0
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『子ども一人一人にあたたかいかわりをしている』については、前期より高評価を得た。 ・おおむね意欲的な姿が見られるが、『見える仕事』について、今一度、意識化されるよう、促していく必要を感じる。特に確認、報告・連絡については、特に徹底していかなければならぬ状況である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『見える仕事』を実現するため、報告・連絡・相談の徹底を図る。 ・保育の事は、教員がすることについて、引き続き改善していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のチームワークを感じるが、職員の保護者への対応で気がかりな点もある。 ・園の取組を理解し、協力していきたい。